

ファイザープログラム
心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

2021 年度
選考結果のご報告

2021 年 12 月

ファイザー株式会社



患者さんの生活を大きく変えるブレイクスルーを生み出す

— 目 次 —

1. プログラム紹介	1
2. 2021 年度新規助成 応募状況	2
3. 2021 年度助成対象プロジェクト一覧	4
4. 新規助成の選考経過と助成の特徴	6
5. 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	9
6. 継続助成の選考経過と助成の特徴	13
7. 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	16

プログラム紹介

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第21回となる本年度は、新規助成として全国から109件のご応募をいただき、そのうち7件（助成総額1,435万円）が、また、継続助成として12件のご応募をいただき、そのうち9件（助成総額1,490万円）が、それぞれの選考委員会による厳正なる選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること

■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の開発と提供）だけでは十分に満たすことのできないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源が十分に整っていない分野における市民活動とともに、市民研究も重点的に支援していること
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの独創性・試行性に評価の重点を置いていること
- (4) 単年だけではなく、継続した支援も行なっていること
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も前向きに助成すること
- (6) 中間時点でのインタビュー実施によるフォローアップを行なっていること
- (7) 市民活動・市民研究の社会的認知の向上を目的とした広報活動も重視していること

■ 助成対象

心とからだのヘルスケアに取り組む市民活動および市民研究

■ 選考委員会

《新規助成》

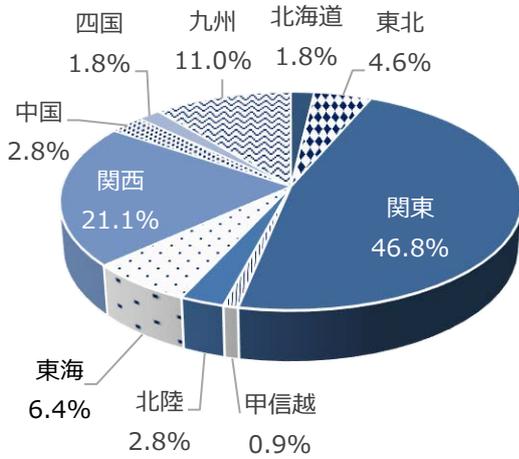
委員長	西村 ユミ	東京都立大学 健康福祉学部／人間健康科学研究科 教授
委員	青木 聖久	日本福祉大学 福祉経営学部 教授
委員	清田 仁之	特定非営利活動法人月と風と 代表
委員	熊谷 紀良	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター 統括主任
委員	森 幸子	一般社団法人日本・難病疾病団体協議会 監事
委員	喜島 智香子	ファイザー株式会社 コミュニティ・リレーション部 部長

《継続助成》

委員長	西村 ユミ	東京都立大学 健康福祉学部／人間健康科学研究科 教授
委員	青木 聖久	日本福祉大学 福祉経営学部 教授
委員	清田 仁之	特定非営利活動法人月と風と 代表
委員	熊谷 紀良	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター 統括主任
委員	森 幸子	一般社団法人日本・難病疾病団体協議会 監事
委員	喜島 智香子	ファイザー株式会社 コミュニティ・リレーション部 部長

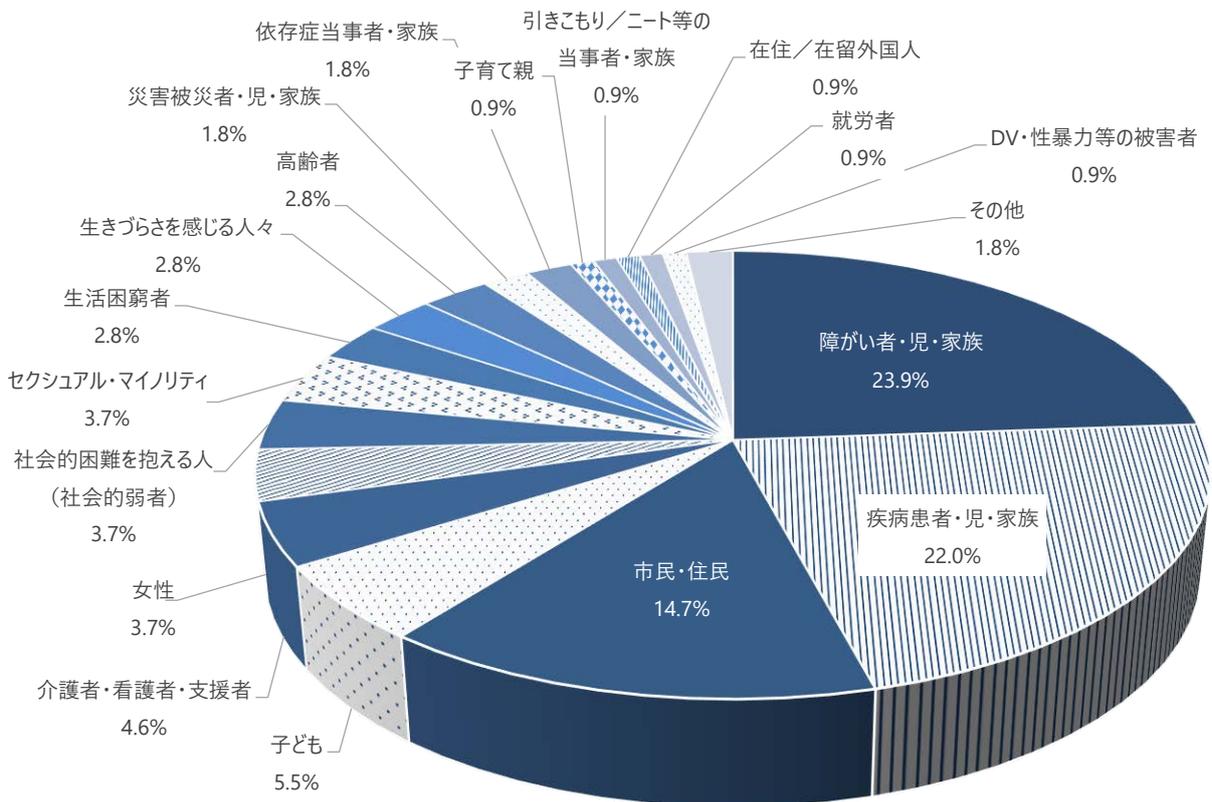
2021 年度新規助成 応募状況

1. 団体所在地



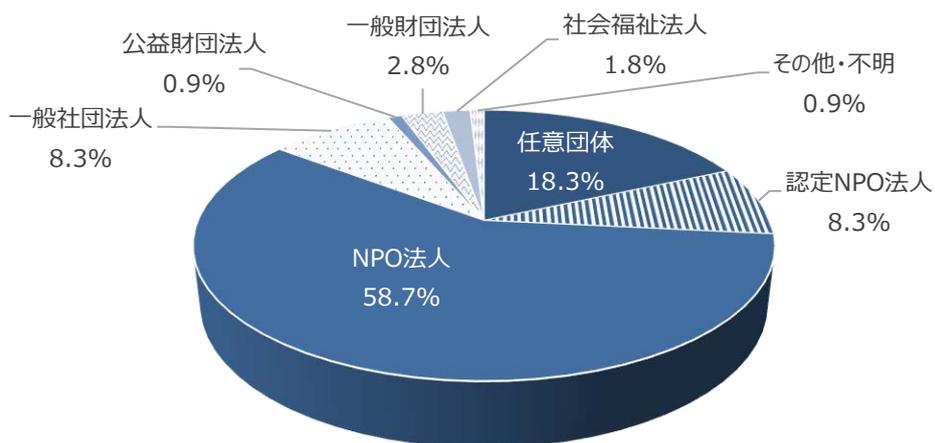
都道府県	団体数	割合	都道府県	団体数	割合
北海道	2	1.8%	関西	滋賀	1
東北	青森	0		京都	8
	岩手	1		大阪	11
	宮城	3		兵庫	3
	秋田	0		奈良	0
	山形	0		和歌山	0
	福島	1	中国	鳥取	0
関東	茨城	0		島根	1
	栃木	0		岡山	0
	群馬	0		広島	1
	埼玉	2	山口	1	
	千葉	3	四国	徳島	0
	東京	37		香川	1
神奈川	9	愛媛		1	
甲信越	山梨	1	高知	0	
	長野	0	九州	福岡	9
	新潟	0		佐賀	1
北陸	富山	1		長崎	2
	石川	1		熊本	0
	福井	1	大分	0	
東海	静岡	2	宮崎	0	
	愛知	2	鹿児島	0	
	岐阜	3	沖縄	0	
	三重	0	計	109	
				109	100.0%

2. 支援対象の分類

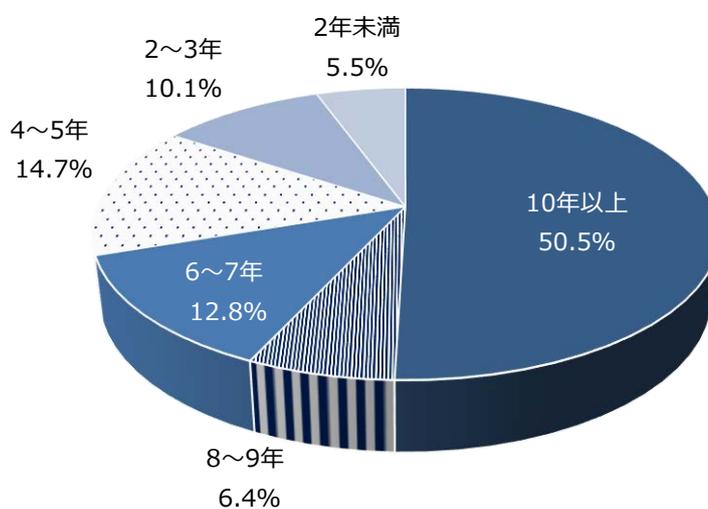


3. 組織形態

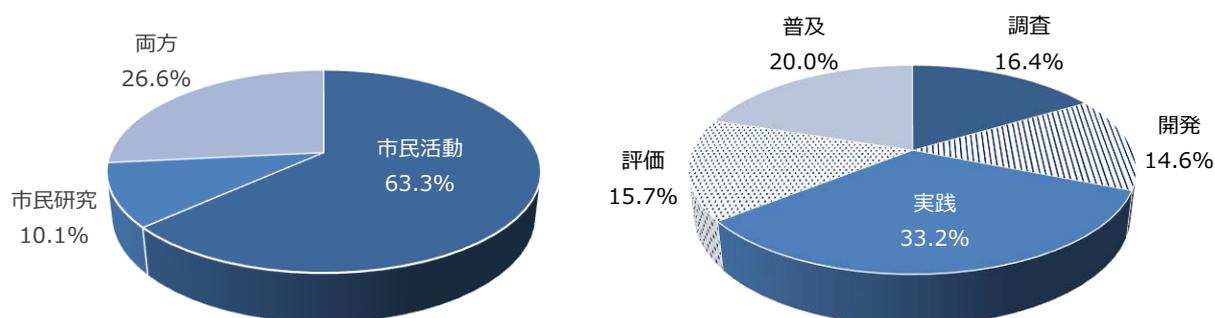
○法人種別



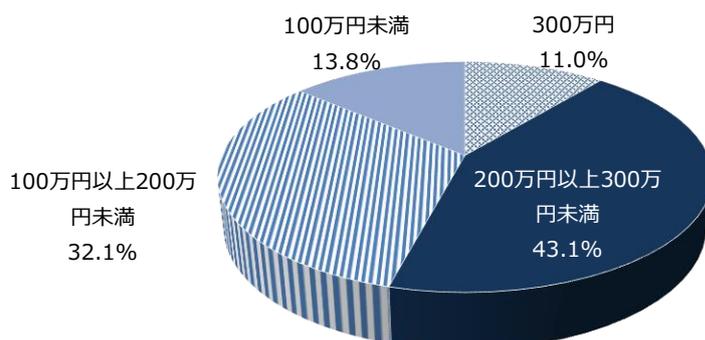
○活動年数



4. 応募種別



5. 応募金額



2021 年度助成対象プロジェクト一覧

— 新規助成（助成1年目） —

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
1	○	○	山谷の野宿者を継続的に医療に繋げるためのしくみづくり	一般社団法人 結 YUI	義平真心	東京	253
2	○		生活困窮状態にある LGBT 当事者への相談支援体制の充実	LGBTハウジング ファーストを考える会 ・東京	松灘かずみ	東京	250
3		○	ポストコロナ時代の若年性認知症支援のための現状把握と支援の方向性の検討	一般社団法人 全国若年認知症家族会 ・支援者連絡協議会	宮永和夫	東京	150
4	○		リージョナルセンターのための癌 SCN サポーター養成講座開発プロジェクト	特定非営利活動法人 パンキャンジャパン	眞島喜幸	東京	122
5		○	食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究	特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都	空閑浩人	京都	131
6	○	○	コミュニティ・パントリー活動を広げるためのフードバンク活動連携プロジェクト	特定非営利活動法人 e ワーク愛媛	難波江任	愛媛	266
7	○		病気や障害のある人達と仲間でナビする出会い、体験、まち歩きプロジェクト	特定非営利活動法人 わくわーく	小橋祐子	福岡	263
助成総額〔7件・合計〕 1,435 万円							

(2021 年度の助成期間は 2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

2021 年度助成対象プロジェクト一覧

— 継続助成 —

活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)	
[助成 2 年目]							
1	○	全国難病センター設置に向けた 実態調査と基盤整備	一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会	吉川祐一	東京	85	
2	○	DV 等暴力被害者の回復と地域での 生活再建を支えるプロジェクト	特定非営利活動法人 コミュニティ・ ネットワーク・ウェーブ	佐光正子	東京	230	
3	○	PAH の会における Post コロナの 患者会運営モデルの確立	特定非営利活動法人 PAH の会	村上紀子	神奈川	105	
4	○	With コロナ時代の若年性認知症者の 新活動スタイルの構築	特定非営利活動法人 認知症の人とみんなの サポートセンター	沖田裕子	大阪	200	
5	○	中堅世代の触法障がい者と市民の つながりを築くモデルプロジェクト	一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ	梅田靖規	兵庫	220	
6	○	就労支援事業の振り返りと疾患別 体験談報告の冊子作成プロジェクト	特定非営利活動法人 奈良難病連	大森雅子	奈良	50	
[助成 3 年目]							
7	○	○	見沼の文化と SDGs を意識した 共同創造のソーシャルファーム づくりー3	公益社団法人 やどかりの里	増田一世	埼玉	250
8	○	LGBT のキャリア支援を担う 人材育成モデルの構築	認定特定非営利活動法人 ReBit	薬師実芳	東京	250	
9	○	病気や障害のある人の「きょうだい」 の経験共有の場「シブパネル」開発 プロジェクト	特定非営利活動法人 しづたね	清田悠代	大阪	100	
助成総額 [9 件・合計]						1,490 万円	

(2021 年度の助成期間は 2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

新規助成の選考経過と助成の特徴

新規助成 選考委員長 西村 ユミ

【はじめに】

本年度（2021年度）の応募件数は109件（昨年67件）であり、昨年度から42件の増加が見られました。都道府県別では、沖縄を除く各ブロックから応募をいただきました。その割合は、関東圏が最も多く46.8%、次いで関西21.1%、九州11%、東海6.4%の順となりました。

予備選考では47件が選出され、昨年よりもやや多い件数が本審査の対象になりました。本審査対象プロジェクトは、いずれも心とからだのヘルスケアにおいて重要な課題に取り組んでおりましたが、複数の審査を経て、特にファイザープログラムに合致し、発展性のある7件を助成対象に決定しました。以下に選考過程と結果を示します。

【選考経過と結果】

新規助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間：2021年6月14日（月）～6月28日（月）
 応募件数：109件（参考：2020年度67件）
- ・ 予備選考委員会：7月27日（火）
 選考結果：本審査対象47件を選出
- ・ 書類選考：7月29日（木）～8月18日（水）
 コンプライアンス委員会：書類選考と並行してコンプライアンス確認作業を実施
- ・ 本選考委員会：8月24日（火）
 選考結果：助成候補9件を選出
- ・ 事務局ヒアリング：9月6日（月）～9月21日（火）
- ・ 選考委員長決裁：10月12日（火）
 助成決定：助成件数7件、助成総額1,435万円

【書類選考・選考委員会】

書類選考は、委員長も含めて6名の選考委員によって行われました。各委員が、専門性をもとに、ファイザープログラムのテーマとする「心とからだのヘルスケア」に関する市民活動・市民研究支援という視点から、選考基準に沿って評価を行いました。この審査においては、各委員が推薦5件、準推薦2件の計7件を選出し、評価結果と推薦理由および助成にあたっての課題を提出しました。

その結果、「推薦4」の評価を受けたプロジェクトが1件、「推薦3+準推薦1」が1件、「推薦3」が1件、「推薦2」が4件、「推薦1+準推薦2」が1件、「推薦1+準推薦1」が2件、「推薦1」が9件となりました。「推薦1+準推薦1」以上の全てのプロジェクトに対して、各委員が評価できる点と課題、改善点などを述べ、その後に議論をするというステップを踏みました。意見が分かれた場合は、さらに推薦のポイントや問題点などを具体的に提示し合い、全委員が納得するまで議論を重ねて「助成候補」を決定しました。

選考委員会では助成候補9件を選出し、その後に行われた事務局から各団体へのオンラインヒ

アリングの結果を受けて、最終的に委員長決裁にて7件を助成対象として決定しました。

【助成プロジェクトの特徴】

2021年度の選考において採択された新規プロジェクトの特徴は、次の通りとなります。

1. 市民研究から支援へ

市民研究に取り組むプロジェクトとして、2件が助成対象となりました。

『食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究』（特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都）は、食物アレルギーの子どもがもつ「疎外感」や「社会への諦め」の背景・過程を明らかにすることを目的として、医療現場の患者教育内容、支援団体が行う自立支援内容、高校生以上の当事者及び保護者の食物アレルギーとの向き合い方などを調査します。それによって、当の子どもが「必要としている自立支援」のパラダイムデザインを描き、それを発信することで、自立の実現をめざします。

『ポストコロナ時代の若年性認知症支援のための現状把握と支援の方向性の検討』（一般社団法人全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会）は、若年認知症者の社会参加支援に関する調査を実施します。この調査結果をもとに、具体的な支援内容、方法などに関する事例集と実施マニュアルを作成し、関連団体を通して全国に広めることで、新たな社会参加支援につながることをめざします。

これらの市民研究は、当事者が実際に疑問に思ったことや、次の支援や活動に必要な情報を収集するために行われる調査です。それゆえ、研究のプロセス自体がその疑問を考える機会となり、さらに研究成果を得ることは、既に取り組まれている支援自体を問い直したり、新たな方法を生み出したり、新たな支援の枠組みを提案したりすることにつながることで期待されます。

2. 生活という基盤を支えつくる活動

生活困難状況にある者の生活そのものや健康への支援活動を行うプロジェクト3件が、助成対象となりました。

『コミュニティ・パントリー活動を広げるためのフードバンク活動連携プロジェクト』（特定非営利活動法人 eワーク愛媛）は、無料・無人の食料配給場所であるコミュニティ・パントリー事業の拠点を整備するとともに、この運営方法の課題を解決してマニュアル化します。さらに、コミュニティ・パントリーの効果を確認して、将来的に、困窮者支援の在り方の提言につなげます。

『生活困窮状態にある LGBT 当事者への相談支援体制の充実』（LGBT ハウジングファーストを考える会・東京）は、LGBT のもつ多様なニーズに対応するために、専門性を有するスタッフを配置して、相談支援体制を充実させます。さらに、関連機関などとのネットワークを構築することで、生活困窮している LGBT 当事者を地域で支える体制を拡張します。これらの活動実践は、当事者のニーズの可視化と支援の具体的な提言につながります。

『山谷の野宿者を継続的に医療に繋げるためのしくみづくり』（一般社団法人結 YUI）は、医療や生活保護受給に抵抗のある野宿者に対し、巡回看護を行うことで、医療につなげる方法を開発するプロジェクトです。使用障害者へは、当事者と支援チームが共に参加する研修を行い、生活保護を拒否する理由については、その理由などを調査して、対策を講じます。市民活動と市民研究を組み合わせ、野宿者を継続的に医療に繋げる仕組みを構築します。

これらのプロジェクトは、新型コロナウイルス感染対策の影響や社会とのつながりが難しい状況などのために、生活困窮状態となった人々を支援する活動とそのしくみづくりをめざします。食べること、働くこと、健康な状態を保つことは、生きていく基盤となります。それを支えるしくみは、他にも応用可能な成果となり、多様な団体が活用可能となることが期待できます。

3. 病気や障がいのある人と家族を支える

『リージョナルセンターのための癌 SCN サポーター養成講座開発プロジェクト』（特定非営利活動法人パンキャンジャパン）は、ゲノム時代のすい臓がんとの闘病を支えるために、SCN サポーター養成講座（Survivor & Caregiver Network）の日本語版を開発し、診断時から最新医療が受けられるよう支援するサポーターを育成するプロジェクトです。サポーターの活動によって患者とその家族が、すい臓がんの治療に関する理解を深め、安心して治療できることが期待されます。

『病気や障害のある人達と仲間でナビする出会い、体験、まち歩きプロジェクト』（特定非営利活動法人わくわく）は、病気や障がいなどのために、安心して外出できない方が、自宅や病院にいながら、分身ロボット OriHime を活用し、ナビゲーションの役割を担う者とともに北九州市を満喫できるしくみづくりを行います。利用者とナビゲーター役への調査も行い、双方にとっての影響も明らかにする、評価も含めた取り組みとなっています。

これらの活動は、いずれも患者や障がいを持った者への支援となっていますが、それは一方で、安心して治療を受けられることを支えるものであり、多方で、療養などのために外出が難しい者の生活の質を高めるプロジェクトであると言えます。治療と生活の質という両者への支援は、当事者を患者としてだけでなく、生活をする者として位置づける貴重な取り組みであると言えます。

【おわりに】

本年度も、新規助成の一連の選考過程に携わらせていただきました。応募プロジェクトの内容から、選考にかかわった私たち選考委員も、社会の課題を突き付けられ、改めて多くを考えさせられました。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大によってあぶり出された、逼迫した健康や生活の課題に対し、柔軟にアイデアを提案して課題に取り組んでいこうとするプロジェクトからは、生きること、生活することの意味を考えさせられました。また、複数のプロジェクトが計画した市民研究に関する議論からは、研究者が行う研究に対し、市民研究がいかなる特徴をもっているのかを考えさせられました。いずれもファイザープログラムが大切にしてきた、地域で暮らす人々の人権を守り、生活を下支えし、その質を高めていく切実さをもったプロジェクトであり、団体の熱意と状況に応じた柔軟性が認められ、発展可能性を感じました。残念ながら助成対象とならなかったプロジェクトも含め、応募いただいたすべての団体の皆様の今後の活動にエールを送りたく思います。

助成対象となったプロジェクトに対しては、具体的な活動の成果を期待するとともに、提案された活動が各地域に、そして広く社会に根付くことを希望します。

新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

プロジェクト名：	山谷の野宿者を継続的に医療に繋げるためのしくみづくり
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	一般社団法人結 YUI
代表者名：	義平 真心
主な活動地域：	東京都

本団体は、山谷の多様性を活かしたまちづくりをめざし、観光・宿泊業を通じた地域の活性化と元ホームレス生活者の就労支援や居住支援を行っている。具体には、生活保護受給者を主な対象とした簡易宿泊所、一般旅行者を対象とした簡易宿泊所やカフェの運営、コロナ禍での野宿者支援に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、野宿者の巡回看護、元野宿者も参加した支援チームが依存症について学ぶ研修、医療生活保護を拒否する理由や本人の意向を明らかにするための野宿者や元野宿者への聞き取り調査を通して、野宿者を継続的に医療に繋げる方法を模索する。

危機的な状況への対応のみならず、根本的治療を求める野宿者へのアプローチを行い、本人との信頼関係の醸成を大切にしながら、医療や行政に繋いでいこうとしている。野宿者に対する行政や市民の意識に一石を投じるものになるだろう。コロナ禍で野宿者の方々を取り巻く環境は厳しさを増しており、他団体との協力で人道的な支援の輪を作り、より広範な活動が出来るようになることを期待したい。

プロジェクト名：	生活困窮状態にある LGBT 当事者への相談支援体制の充実
助成種別：	市民活動
団体名：	LGBT ハウジングファーストを考える会・東京
代表者名：	松灘 かずみ
主な活動地域：	東京都

本団体は、生活困窮などを理由としてホームレス状態となった LGBT 当事者に居所の提供や相談支援を通して自立生活に向けたサポートを行うことを目的に、都内を中心にさまざまな状況に置かれた LGBT 当事者・生活困窮者の支援を続けている個人や団体が集まったグループである。

本プロジェクトでは、生活困窮状態にある LGBT 当事者が利用できる個室シェルターの運営と居住支援を継続しつつ、重複した課題を抱えた当事者のニーズに即した専門家支援体制の充実、関連機関とのネットワークの充実、全国の生活困窮者支援団体の LGBT 支援実態調査の拡大、相談に繋がりにくい当事者へのアウトリーチ活動などに取り組む。

重複した課題に対して、多角的な活動を持続的に行うことが企図されており、活動の厚みと実現可能性を評価した。本プロジェクトを通じて、LGBT と貧困についてのニーズが社会において可視化され、企業や市民の活動協力者を募り、持続的な支援体制の構築につながることを期待したい。

プロジェクト名： ポストコロナ時代の若年性認知症支援のための現状把握と支援の方向性の検討
助成種別： 市民研究
団体名： 一般社団法人全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会
代表者名： 宮永 和夫
主な活動地域： 東京都

本団体は、全国各地の若年性認知症本人と家族、支援者の 48 団体で構成され、毎年開催される全国若年認知症フォーラムの実施や会員同士の情報交換を行い、コロナ禍では当事者への相談・物資配布・感染対応マニュアルの作成など緊急支援活動に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、若年性認知症支援に取り組む本団体の会員 48 団体と会員外の 30 団体を対象とした若年性認知症者の社会参加支援の実態調査の結果をもとに社会参加支援の事例集と実践マニュアルを作成し、これを全国に配布して広めていく。

若年性認知症への社会的理解と家族を含めたケアの体制が十分でないなか、本調査は全国の草の根の活動団体が自主的につながったネットワークを通じて行われるため、実現性が期待できる。当事者の主体性の尊重や地域での多様な協働による支援の実態が明らかにされ、当事者の社会参加が幅広く促進されることを期待したい。

プロジェクト名： リージョナルセンターのための癌 SCN サポーター養成講座開発プロジェクト
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人パンキャンジャパン
代表者名： 眞島 喜幸
主な活動地域： 東京都

本団体は、米国の非営利団体 PANCAN の日本支部として設立され、すい臓がん撲滅を合言葉に、全国のすい臓がん患者やその家族と力を合わせ、より充実したコミュニティを構築するため、早期発見や治療につながる研究の支援、患者・家族の支援、政策提言や啓発活動に取り組んでいる。

本プロジェクトは、米国本部の SCN (Survivor & Caregiver Network) サポーター養成講座の日本語版を開発し、患者・家族の情報支援を行うサポーターを養成し、サポートセンターの設置とサポーターのネットワークを構築することで、ゲノム医療を含む最新の医療について、診断時から患者と家族が必要とする情報を得ることができるよう支援するというものである。

本団体が既に保有している教材開発やビデオ制作などのノウハウなどを活かし、家族や患者をサポーターに位置付けている点を評価した。米国や欧州での知見などを活かした上で、医療職とは異なる当事者の経験値を大切にしながら、講座で身に付けた知識や相談対応スキルによって、患者や家族に寄り添った支援が展開されることを期待したい。

プロジェクト名： 食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究
助成種別： 市民研究
団体名： 特定非営利活動法人 FaSoLabo
代表者名： 空閑 浩人
主な活動地域： 京都府

本団体は、食物アレルギーの子どもと保護者と共に歩むことを目的に、子どもと保護者が食事の心配をすることなく集って交流できる機会づくり、食事や子育てに関する相談などの保護者の支援、食物アレルギーの理解を広げる活動に取り組んでいる。

本プロジェクトは、食物アレルギーの子ども（FA 児）が抱く疎外感や社会への諦めの背景となっているものや影響しているものについて、医療現場、支援団体、FA 児とその保護者を対象に多角的な調査を行い、子どもたちの視点をもとに自立支援のパラダイムデザインを描くことを試みるものである。独創性があり、プロジェクトの展開も具体的である。

医療現場や支援団体などの大人の視点で実施している FA 児の自立支援や教育を見直すきっかけとなり、広く周知されることで他の疾病や障害当事者の自立支援や環境の改善にもつながり、子どもたちのエンパワーメントが図られることを期待したい。

プロジェクト名： コミュニティ・パントリー活動を広げるためのフードバンク活動連携プロジェクト
助成種別： 市民活動・市民研究
団体名： 特定非営利活動法人 eワーク愛媛
代表者名： 難波江 任
主な活動地域： 愛媛県

本団体は、愛媛県の新居浜市・松山市・宇和島市で、ひきこもりやニートなどの若者たちの自立支援、生活困窮者の食料支援や就労準備支援、フードバンク、こども食堂に取り組んでいる。

本プロジェクトは、困窮者支援を行う団体を通して困窮世帯への食料支援を行ってきたところ、困窮世帯からフードバンクへの食料支援依頼が増加していることから、県内のフードバンク団体がネットワークを作り、こども食堂や社会福祉協議会などの困窮者支援団体と連携しながら、コミュニティ・パントリー活動を展開し、その運営方法をマニュアル化し、プロジェクトの効果を確認するものである。

全国的にフードバンク活動が根付きつつあるなか、コミュニティ・パントリー活動を新たに展開することで、困窮者のニーズや課題にどのような効果があるのか、相談支援とどのようにリンクさせていくのか、従来の支援では手が届かなかった困窮者にどこまでアプローチできたのかが明らかになり、改善策も含めた提言がまとまることを期待したい。

プロジェクト名：	病気や障害のある人達と仲間でナビする出会い、体験、まち歩きプロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人わくわーく
代表者名：	小橋 祐子
主な活動地域：	福岡県

本団体は、こころとからだの健康と住みよいまちづくりをめざし、誰もが気軽に集える場所や時間をつくり、様々な方と協力しながらヒト、モノ、コトの繋がりを広げていく担い手となることを掲げ、精神障害者の障害福祉サービス事業所を運営し、就労支援や生活支援に取り組むと共に、多世代交流スペースやコミュニティ食堂の運営にも取り組んでいる。

本プロジェクトは、病気や障害などにより外出困難な人たちが自宅や病院にいながら分身ロボット OriHime を遠隔操作し、障害者施設の利用者と学生によるナビを受けながら、まち歩きやお店での接客や販売体験などを楽しみ、新たな出会いや体験、発見を生み出す試みである。

障害者・学生・市民・アート・観光・先端技術がクロスオーバーすることで、想定以上の効果が期待される。北九州市内のヒト、モノ、コトを繋ぎながら、一人ではどうすれば良いか分からない人たちのさまざまな思いを実現し、まちぐるみの心豊かな地域づくりとなることを期待したい。

継続助成の選考経過と助成の特徴

継続助成 選考委員長 西村 ユミ

【はじめに】

本年度（2021年度）の応募件数は12件（2020年度と同数）であり、内訳は、助成2年目が7件、助成2年目（1年空き）が1件、助成3年目が4件でした。応募プロジェクトは、コロナ禍の中であっても、既に1年間、あるいは2年間の活動を経ており、一定の成果をあげつつ、さらなる展開の必要性があるものでした。選考委員会での審査では、プロジェクトの発展性と継続可能性の高い9件を助成対象に決定しました。

以下に選考過程と結果を示します。

【選考経過と結果】

継続助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間：2021年8月24日（火）～8月31日（火）
 応募件数：12件（助成2年目：8件、助成3年目：4件）
- ・ 書類選考：9月4日（土）～9月21日（火）
- ・ 選考委員会：9月27日（月）、9月28日（火）
 選考結果：助成件数9件、助成総額1,490万円

【書類選考・選考委員会】

書類選考は、委員長も含めて6名の選考委員によって行われました。各委員が、専門性をもとに、ファイザープログラムのテーマとする「心とからだのヘルスケア」に関する市民活動・市民研究支援という視点から、選考基準に沿って評価を行いました。審査においては、選考委員会前に、各委員がすべての応募プロジェクトに対して、仮評価結果とコメントおよび助成にあたっての課題を提出しました。

選考委員会では、各応募プロジェクトのオンラインプレゼンテーション及び応募書類をもとにした質疑応答を経て、各委員から最終評価が出されました。その後、全委員の評価結果をもとに、評価できる点や改善点、プロジェクトがより実現可能かつ具体化する提案などを提示し合い、全委員が納得するまで議論を重ねて、9件を助成対象として決定しました。

【継続助成プロジェクトの特徴】

2021年度の選考において採択されたプロジェクトの特徴は、次の通りとなります。

1. 難病やがんなどの患者を支えるしくみ

難病やがんなどの患者を支援するためのプロジェクト3件が助成対象となりました。いずれも2年目の助成です。

『全国難病センター設置に向けた実態調査と基盤整備』（一般社団法人日本難病・疾病団体協議会）は、多様な団体が集まってできた協議会を基盤に、さらに多方面からメンバーが集まってプロジェクトを進めています。当時者及び支援者の全国的な中核になることをめざした「全国難病

センター」の設置に向けたこの動きによって、さらに多くの団体や支援を求める人々と、一般の市民がつながる方法を提案されることが期待できます。

『就労支援事業の振り返りと疾患別体験談報告の冊子作成プロジェクト』（特定非営利活動法人奈良難病連）は、難病ピアサポート冊子の作成、および就労支援事業の振り返りと疾患別体験談をまとめた冊子の作成に取り組みます。冊子づくりの過程は、他の病気のことや患者会を知る機会となり、また、患者会のない希少疾患の方が参加をする場となることで、新たな患者会が生まれる可能性もめざしています。

『PAHの会におけるPostコロナの患者会運営モデルの確立』（特定非営利活動法人PAHの会）は、Postコロナ時代の新しい生活様式に即した患者会運営方法の構築に取り組んでいます。継続助成では、全国大会および各地区での勉強会を、オンラインと対面のハイブリッド方式で実施する計画を立てており、肺高血圧症の患者と家族が安心して参加できる基盤づくりを行うとともに、生活上の課題などを含む調査を実施し、今後の支援に繋がります。

これらのプロジェクトによって、様々な疾患を支援する患者会や協議会が有機的につながり、活動を行うことで、当の患者さん方は自身の疾患のみでなく他の疾患のことも把握し、個別の患者会の活動は他の患者会にも応用され、さらに、それらの知恵が中核のセンターで交換されることで、個人や団体が相互に支援し合える場が作られる可能性が期待できます。

2. 社会とのつながりと自立を支える場づくり

2年目の助成となる『DV等暴力被害者の回復と地域での生活再建を支えるプロジェクト』（特定非営利活動法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ）は、DV被害者の自立に向けて、短期間、居住提供を行うステップハウス事業に、居場所事業やサポート事業などの多様な事業を組み合わせた支援プロジェクトです。理解ある支援者を育てる講座も企画されていることから、地域における支援ネットワークの広がりが期待できます。

同じく2年目（1年空けて）の助成となる『中堅世代の触法障がい者と市民のつながりを築くモデルプロジェクト』（一般社団法人神戸ダルクヴィレッジ）は、栽培した無農薬野菜や加工品の販売、飲食店の営業などの活動を通して、仲間と相互に支え合いながら市民とつながり、社会に貢献することをめざすプロジェクトです。この経験を経て、地域社会の理解を基盤とした、触法障がい者の回復と社会復帰が期待されます。

3年目の助成である『見沼の文化とSDGsを意識した共同創造のソーシャルファームづくりー3』（公益社団法人やどかりの里）は、コミュニティカフェ構想の具体化により、多様な地域住民が集う地域の拠点づくり、移動式屋台やまちなか保健室での地域巡回や企業、市民、自治体との協働イベントを通して共同創造の基盤をつくります。また、ワークショップでのものづくりを通して、環境と共生する持続可能な暮らしと地域づくり展開します。

これらのプロジェクトは、いずれも支援を必要とする人々が支援とつながる場や活動を提供し、共創することで、地域社会に根を張り社会的な自立へとつなげるプロジェクトです。地域そのものが、ケアする社会として創造されていくことが期待できます。

3. サポートする人・きょうだい・家族の支援

2年目の助成となる『With コロナ時代の若年性認知症者の新活動スタイルの構築』（特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター）は、若年認知症の人とその家族の「新しい

活動の在り方」の検討をもとに、オンライン交流会の対象地域や団体を広げ、参加が難しい女性当事者へのプログラムの継続と家族の勉強会を開催します。さらに、サポーターの養成を行い、当事者の活動の場を広げます。

次の2件は、3年目の助成となります。『**LGBTのキャリア支援を担う人材育成モデルの構築**』（認定特定非営利活動法人 **ReBit**）は、国家資格キャリアコンサルタント向けの育成プログラムを制作し、基礎・応用編の研究を開発してきました。最終年度となる本年度は、作成した教材と研修をもとに、国家資格をもたないより広い就労支援者層へ対象を広げ、eラーニング教材キットの開発と支援者同士が学び合うラーニングコミュニティを形成し、LGBTも含めた誰もが自分らしく働き、生きられる社会を作ることに貢献します。

『**病気や障害のある人の「きょうだい」の経験共有の場「シブパネル」開発プロジェクト**』（特定非営利活動法人 **しぶたね**）は、米国で開催されている、病気や障がいのある人のきょうだいが登壇するパネルトークを、日本文化に合わせてアレンジした「シブパネル」の開催を継続します。最終年度は、作成した登壇者の心の安全を守るためのガイドラインを用いて、シブパネルを複数個所で開催し、開催地域間のネットワークを拡張し、併せてガイドラインを洗練します。

これらのプロジェクトは、社会で生きにくさを感じている当事者のみならず、共に暮らす者、あるいは支援者、サポーターを支援する教材やプログラムを作成し、支援の基盤を構築します。これまで以上に工夫を凝らして取り組まれるプロジェクトであり、活動の展開は、支援者を増やしネットワークを広げて、広く社会を包摂していく可能性をもっています。

【おわりに】

継続助成の審査は、前年度、前々年度に審査をしたプロジェクトが対象となっています。この間はコロナ禍でありましたが、対策を講じた活動に期待しつつ、今後の発展可能性を見据えて評価を進めました。書類審査と各プロジェクトのプレゼンテーションからは、プロジェクトの進捗や各支援対象の課題のみならず、全世界を巻き込む新型コロナウイルス感染症のパンデミックが、地域社会で生きる多様な状態にある人々にいかなる影響を与えているのか、そこにいかなる支援が求められているのかが見えてきました。また支援となるプロジェクトの遂行の難しさと、その中での様々な工夫には、審査する私たちの方が多くを学ばせていただきました。

助成が決まったプロジェクトは、いずれもファイザープログラムが大切にしてきた、地域で暮らす人々の人権を守り、暮らしを下支えし、またそれらを継続発展していく切実さをもったプロジェクトであり、応募団体の熱意が伝わってくるのと同時に、状況に応じた柔軟性からは発展可能性が期待できました。

残念ながら助成対象とならなかったプロジェクトも含め、応募下さったすべての団体の皆様の活動にエールを送ります。助成対象となったプロジェクトに対しては、具体的な活動の成果を期待するとともに、提案されたプロジェクトが各地域に、そして広く社会に根付いていくことを希望します。

継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

【助成2年目】

プロジェクト名：	全国難病センター設置に向けた実態調査と基盤整備
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人日本難病・疾病団体協議会
代表者名：	吉川 祐一
主な活動地域：	東京都

本団体は、難病・長期慢性疾患・小児慢性疾患などの患者団体と地域難病連で構成された全国連合組織で、誰もが地域で尊厳をもって安心して暮らせる共生社会の実現をめざし、「当事者の声を届ける」「当事者支援」「社会への啓発」の三つを活動の柱に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、ネット環境の拡充や若年層の患者会離れを背景に、全国難病センターの設置をめざし、世代ごとに異なるライフスタイルに対応した役割と機能を検証するため、1年目は、ピアサポートや小規模患者会・希少疾患患者会の実態調査に取り組み、問題意識を共有した。2年目は、患者と患者会のためのオンライン支援サービスを試験的に行い、オンラインによる相談支援、患者の交流や情報発信の効果を検証し、全国難病センター設置計画の立案に反映する。

会員数も多く、大きな組織であるが、民主的な議論を交わしながら、既定路線にしないプロジェクトの展開が図られている。1年目の成果を踏まえ、オンラインを積極的に活用するなかで、全国難病センターが多様なライフスタイルをもつ患者の新たな拠り所となることを期待したい。

プロジェクト名：	DV等暴力被害者の回復と地域での生活再建を支えるプロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人コミュニティ・ネットワーク・ウェブ
代表者名：	佐光 正子
主な活動地域：	東京都

本団体は、すべての人が家庭や地域の中で普通の日常生活を送り、支え合って暮らす社会の実現をめざし、不安の多い世の中において、こころの拠り所となる活動を展開するため、DVを含む相談援助事業、高齢者や障害者などの居宅支援事業、地域福祉事業の三つの柱で活動している。

本プロジェクトでは、DVなど暴力被害者の回復と生活再建をサポートするため、1年目は、傷ついた心とからだを休め、本来の力を回復できるような一時的な住居（ステップハウス）と心身のケアプログラムを提供すると共に、地域の人々に暴力被害についての理解を得るための地域ネットワークづくりに取り組んだ。2年目は、ステップハウスの運営を中心に、DV被害者の自立支援と安心して生活していくための地域環境の構築に継続して取り組む。

ステップハウスの入居者が決まったことに加えて、重層的な支援メニューを提供し支援していることを評価した。多彩な取り組みと多様な団体とのつながりを活かし、DVなど暴力被害者の回復と地域での生活再建を支えるモデルとなることを期待したい。

プロジェクト名： PAH の会における Post コロナの患者会運営モデルの確立
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人 PAH の会
代表者名： 村上 紀子
主な活動地域： 神奈川県

本団体は、指定難病である肺高血圧症患者と家族で運営している全国組織の患者会で、会員同士の繋がりを深め、より良い医療環境の実現をめざし、会員の交流会や勉強会の開催、全国大会の開催、ニュースレターの発行、ホームページの運営、学会との協働に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、肺高血圧症がコロナ感染にハイリスクの疾患であり、これまで通りの活動が続けられないことから、ポストコロナに向けた新しい患者会運営に変革するため、1年目は、オンラインを活用した勉強会の開催、会員への情報提供の強化、理事の増員、ホームページのリニューアルに取り組んだ。2年目は、オンラインと対面のハイブリッドによる勉強会と全国大会の開催、肺高血圧症患者の生活実態調査に取り組む。

新しい生活様式に添った形で患者会の運営が実現できたことを評価した。肺高血圧症患者の生活実態とニーズを明らかにし、オンラインを活用することで患者や患者会の発信力を高め、患者の治療や生活が改善され、多くの患者会のモデルとなることを期待したい。

プロジェクト名： With コロナ時代の若年性認知症者の新活動スタイルの構築
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター
代表者名： 沖田 裕子
主な活動地域： 大阪府

本団体は、誰もが認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの実現をめざし、既存の社会資源が不足している若年性認知症や初期の認知症の支援に力を入れ、認知症の人や家族の居場所づくり、相談事業、必要な支援方法の研究や研修に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、with コロナ時代の新しい生活様式に合わせた新しい活動スタイルを作ることを目的に、1年目は、オンラインと対面による若年性認知症の当事者・家族交流会の開催、若年性認知症の女性のための集い、クラウドファンディングを活用した当事者による作品づくり、当事者の思いを社会に伝えるための聴き取りを行った。2年目は、地域を広げた交流会の促進、女性のための集いと家族のための勉強会の継続、当事者の社会参加を促進する講演活動や商品開発、当事者からのメッセージをまとめた手記の作成と発信、サポーターの養成に取り組む。

若年性認知症の本人と家族に丁寧に向き合い、女性の当事者や介護家族に注目したことを評価した。サポーターや協力者の拡大、地域との連携や他団体との協働に向けた情報発信に力を入れ、当事者や家族との互恵的な関係を築き、活動の幅が広がることを期待したい。

プロジェクト名： 中堅世代の触法障がい者と市民のつながりを築くモデルプロジェクト
助成種別： 市民活動
団体名： 一般社団法人神戸ダルクヴィレッジ
代表者名： 梅田 靖規
主な活動地域： 兵庫県

本団体は、依存症者の社会復帰を支える地域づくりと依存症問題で苦しむ本人や家族などが助けを求められる居場所づくりをめざして、依存症者の回復支援リハビリ施設の運営と相談支援、依存症問題の啓発活動に取り組んでいる。

本プロジェクトでは、触法障がい者と市民とのつながりを築くため、1年目は、コロナの影響で変更を余儀なくされたものの、当事者による体験談スピーチの学習と体験談集の作成、エイサー太鼓の練習、野菜栽培に取り組んだ。2年目は、無農薬野菜の加工販売、食材のテイクアウト販売、仲間たちへの食料配布、偏見をなくすための映像制作を通じて、市民の理解を広めると共に、当事者の回復と社会復帰を促進するものである。

コロナ禍でも実施可能なさまざまな企画をプロジェクトに組み込み、全員で丁寧に作り上げていくプロセスと体験を伝えるツールとしての映像の力を評価した。地域とのコミュニケーションを通じて、市民の力も借りながら相互理解が進み、活動が横展開することを期待したい。

プロジェクト名： 就労支援事業の振り返りと疾患別体験談報告の冊子作成プロジェクト
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人奈良難病連
代表者名： 大森 雅子
主な活動地域： 奈良県

本団体は、難病患者が社会へ参画できるように支援し、難病に関する正しい知識や情報を提供するため、難病ピアサポート事業、就労支援事業、医療講演会事業に取り組み、奈良県内の10の疾病団体と希少難病の会員で構成され、106名の難病ピアサポーターが登録している。

本プロジェクトでは、難病ピアサポート事業や就労支援事業の基盤を作るため、1年目は、難病ピアサポート事業の歩みをまとめ、患者会ごとに病気の概要とピア相談事例をまとめた冊子づくりを通して、ピアサポーターの研修と交流の場を設け、スキルアップと質の向上につなげた。2年目は、就労支援事業の振り返りと疾患別体験談をまとめた冊子を作成する。

難病患者の就労は未だ難しい現状があり、相談は増加傾向にある。1年目に作成したピアサポート冊子と共に、疾病や症状ごとに異なる実体験をまとめることは就労支援に必要なものになる。コロナ禍で活動が限られるなか、本プロジェクトはピアサポーターや各患者会が疾患を越えて相互に理解し合える活動にもなっており、次なる活動を支える意義あるものになることを期待したい。

【助成 3 年目】

プロジェクト名：	見沼の文化と SDGs を意識した共同創造のソーシャルファームづくりー 3
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	公益社団法人やどかりの里
代表者名：	増田 一世
主な活動地域：	埼玉県

本団体は、障害があっても自分らしく生きることのできる地域の実現をめざし、1970 年から精神障害のある人への地域支援活動を展開し、障害のある人の暮らしの場、働く場、相談の場、憩いの場をさいたま市内に幾つも生み出してきた。

本プロジェクトは、障害の有無にかかわらず、地域で必要な支援につながりにくい人と出会い、一人の課題やニーズを自分ごととして共有できるコミュニティづくりをめざしている。これまでの取り組みを通じて、困難を抱えている人たちの現状を調べ、地域巡回の経験からアウトリーチと拠点づくりの必要性を見出し、見沼の人と自然を生かした食とケアとエネルギーの自給圏の形成をめざすソーシャルファームづくりを打ち出した。3 年目はヤギや太陽光発電、移動式屋台による地域巡回などユニークなきっかけも取り入れつつ、市民参加型の企画が計画されている。

プロジェクトが段階的に発展している様子が伝わり、コミュニケーションの重要なきっかけを戦略的に作っており、これからの共同社会づくりの一つの実践モデルとなることを期待したい。

プロジェクト名：	LGBT のキャリア支援を担う人材育成モデルの構築
助成種別：	市民活動
団体名：	認定特定非営利活動法人 ReBit
代表者名：	薬師 実芳
主な活動地域：	東京都

本団体は、LGBT を含めた全ての子どもがありのまま大人になり暮らせる社会をめざし、教育現場における普及啓発や教材開発、LGBT のキャリア支援や企業への啓発活動、若手リーダーの育成、教育や就労支援に関する調査などに取り組んでいる。

本プロジェクトでは、これまでの 2 年間の取り組みで国家資格キャリアコンサルタントへ向けた育成プログラムを制作し、基礎・応用編の研修を開発して、LGBT のキャリア支援ができる人材育成に取り組んできた。さらに 3 年目は、e ラーニング教材の開発や支援者同士が支え合うラーニングコミュニティの形成により、国家資格をもたない就労支援者や福祉従事者を含めたより広い就労支援者層への育成体制を作り、複合的な困難さを抱える LGBT のキャリア支援をめざす。

個々人の自己肯定感を大切にしつつ、他者との異なりではなく共通する部分に目が向けられており、本プロジェクトを通じて、LGBT も含めた多様性が認められる社会が構築されることを期待したい。

プロジェクト名：	病気や障害のある人の「きょうだい」の経験共有の場「シブパネル」開発プロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人しぶたね
代表者名：	清田 悠代
主な活動地域：	大阪府

本団体は、病気をもつ子どものきょうだいが安心して過ごせる社会の実現をめざし、きょうだいをサポートするための専門組織として、きょうだいのためのワークショップや病院内でのボランティア活動、サポーターの育成や啓発活動に取り組んでいる。

本プロジェクトは、米国できょうだい支援プログラムのファシリテーター養成トレーニングの一部として広く開催されている、病気や障害がある方のきょうだいが登壇するパネルトーク（Panel of Adult Siblings）を日本版にアレンジし、きょうだいが心の安全を守りながら体験を語れるようガイドラインを作成し、様々な開催パターンのモデルを作りながら普及をめざす。

きょうだいとして悩みを抱えながら成長した大人たちにとって、経験者の話は役に立ち、ピアサポートにもなる。コロナ禍において知恵を絞りながらシブパネルの実現に近づけており、これまでの地域ごとの実践を踏まえ、ガイドラインが活用可能な形に洗練され、当事者が安心して語ることのできる場が広がることを期待したい。